

チタン特集号発刊にあたって



チタン部長

荒沢 義隆

弊社のチタン事業は、昭和59年チタン部発足以来本年で10年を迎えます。後発メーカーとしての苦難の道程ではありましたが、この間関係製鉄所並びに研究部門をはじめとした社内関係者のご尽力はもとより需要家・先発各社及び社外関係先の温かいご理解並びにご支援を賜り今日に至りましたことをこの場を借りて厚く御礼申し上げる次第です。

お陰様で事業内容並びに規模において先発各社と肩を並べるところまで成長し、我が国有数のチタンメーカーとしての地歩を築くことができたものと考えております。

然るに、チタン業界を取り巻く内外の情勢はこの数年の間一転し、未曾有の厳しい環境に直面いたしております。ことに、東西冷戦構造の終焉と世界的な不況の煽りを受けて需要が減少し、一方で旧ソ連からの安価チタン素材の西側世界への流入が続く、大幅な需給の緩和による価格の下落が生じました。加えて我が国では円高による競争力の低下と需要家による海外調達機運が急速に進展いたしております。直近では米国経済の力強い回復を反映し、こうした最悪期を脱出しつつあるやに見受けられますが、当面は一部の景気循環的な要素に囚われることなく、むしろ長期的な市場、経済構造の変質を直視し、抜本的な事業基盤の再構築に挑戦する好機にあると考えております。

弊社はこれまでも率先して新規用途の開発に取り組んで参りましたが、幸い建築・土木分野においてチタンの利用がメンテナンス・フリーないし景観を重視する社会的ニーズとも相俟って本格化する機運にあります。とは言へ金属としてのチタンの利用はまだ緒に就いた段階にあり、引き続き安価な製造法の開発と共に利用加工技術に係わる不断の開発に務め、心を新たにして健全な業界の発展に貢献して参る所存でございます。

本特集では、私共のこれまでの事業の展開及び市場開発努力の一端をご紹介させていただきますが、これを機会に需要家並びに内外関係者の皆様には、従前にも増したご指導並びにご支援を賜りますようお願い申しあげます。